

# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）

〔PCT36 条及び PCT 規則 70〕

REC'D 02 MAR 2006

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 PXK2275P	今後の手続きについては、様式 PCT/ IPEA/ 416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/001338	国際出願日 (日. 月. 年) 31. 01. 2005	優先日 (日. 月. 年) 09. 02. 2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <i>A61K47/04</i> (2006. 01), <i>A61K31/282</i> (2006. 01), <i>A61K31/407</i> (2006. 01), <i>A61K31/475</i> (2006. 01), <i>A61K31/505</i> (2006. 01), <i>A61K31/513</i> (2006. 01)		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社サンギ		

- この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☐ 附属書類は全部で \_\_\_\_\_ ページである。
    - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
    - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で \_\_\_\_\_ (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。  
(実施細則第 802 号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
  - ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
  - ☐ 第 II 欄 優先権
  - ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
  - ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
  - ☒ 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
  - ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
  - ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
  - ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 02. 09. 2005	国際予備審査報告を作成した日 17. 02. 2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 小堀 麻子	4C 2938
	電話番号 03-3581-1101 内線 3452	

様式 PCT/ IPEA/ 409 (表紙) (2005 年 4 月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願  
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))  
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))  
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 10	有
	請求の範囲 1-9	無
進歩性 (I S)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-10	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1-10	有
	請求の範囲	無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: Aoki, H. et al, In vitro interaction of carcinostatic substances adsorbed on hydroxyapatite microcrystals with cells derived from cancers, Transactions of the Materials Research Society of Japan, 1994, Vol.15A, pp3-9

文献2: WO 2002/41844 A2(ETEX CORPORATION)2002.05.30

文献3: JP 6-329557 A(明治乳業株式会社)1994.11.29

文献4: JP 2-200628 A(セントラル硝子株式会社)1990.08.08

文献5: JP 4-112832 A(株式会社サンギ)1992.04.14

文献6: JP 1-51266 B2(株式会社アルスジャパン)1989.11.02

新規性及び進歩性について

請求の範囲 1-9 について

文献1には粒子径  $0.1\mu\text{m}$  以下のハイドロキシアパタイトとドキシソルビシンを含有する腫瘍治療剤が記載されている(第3頁 Abstract)。

文献2には、ナノ結晶ハイドロキシアパタイトとフルオロウラシル等の抗腫瘍成分を含有する腫瘍治療剤が記載されている。

したがって、本願の請求の範囲 1-9 に係る発明は、文献1に記載されたものである。

請求の範囲 1-3, 5-9 について

文献3には、500nm以下のハイドロキシアパタイトと抗腫瘍成分を含有する抗腫瘍剤が記載されている(請求項 1-6、実施例 10)。

したがって、本願の請求の範囲 1-3, 5-9 に係る発明は、文献3に記載されたものである。

請求の範囲 1-4 について

文献4には、ハイドロキシアパタイトとシスプラチンを含有する抗腫瘍剤が記載されている(請求項 1)。

したがって、本願の請求の範囲 1-4 に係る発明は、文献3に記載されたものである。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

## 請求の範囲 1-3 について

文献 5 には、白金を担持させたハイドロキシアパタイトからなる抗腫瘍剤が記載されている（請求項 1）。

文献 6 には、ハイドロキシアパタイトとアドリアマイシン等の抗腫瘍成分を配合した抗腫瘍剤が記載されている（実施例 1、第 2 図）。

したがって、本願の請求の範囲 1-3 に係る発明は、文献 5 及び 6 に記載されたものである。

## 進歩性について

## 請求の範囲 1-10 について

文献 1-6 に記載の抗腫瘍剤において、抗腫瘍成分を適宜他のものに代えてみたり、ハイドロキシアパタイトの粒径を最適化することに格別の創意は要さない。また粒径の調節方法として粉砕を選択することも当業者が適宜なしえたことである。

そして、本願明細書を見ても、それらにより本願の請求の範囲 1-10 に係る発明が、文献 1-6 に記載の発明と比較して格別優れた効果が奏されるとも認められない。

## 国際特許分類（IPC）の続き

**A61K31/675**(2006.01), **A61K31/704**(2006.01), **A61K31/7048**(2006.01),  
**A61K31/706**(2006.01), **A61K38/21**(2006.01), **A61P35/00**(2006.01)